

2020 年度（令和 2 年度）

自己評価 報告書

学校法人巨樹の会
福岡看護専門学校第2科

本報告書は、学校法人巨樹の会 福岡看護専門学校第2科の自己評価結果を記したものである。

評価対象期間 2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日

2021 年 6 月 25 日

学校長 松原 孝俊
副学校長 淀川 めぐみ(学校評価実施責任者)

1. 自己評価の概要と実施状況

1) 自己評価の目的、方針

- ① 教職員が自己評価を行う中で、学生教育ならびに学校運営に関する自己点検、確認、検討の機会とする。
- ② 自己評価の妥当性を、学校関係者評価において確認し、学生教育や学校運営についての客観性・透明性を高める。
- ③ 自己評価ならびに学校関係者評価により、学校運営・教育活動における課題を明確にして、学校運営の改善を図る。
- ④ 自己評価は本校の学校評価実施規程に則り、「専修学校における学校評価ガイドライン」「学校関係者評価の項目」に応じて実施する。

2) 自己評価委員会(9名)

委員氏名	所属
松原 孝俊	福岡看護専門学校 学校長
淀川 めぐみ	福岡看護専門学校 副学校長 兼 第1科 教務部長
松岡 泰裕	福岡看護専門学校 事務部長
萩尾 奈津子	福岡看護専門学校 第2科 教務部長
田中 洋子	福岡看護専門学校 第3科 教務部長
濱野 敦子	福岡看護専門学校 第1科 教務主任
山本 真由美	福岡看護専門学校 第2科 教務主任
野口 千賀子	福岡看護専門学校 第3科 教務主任
福井 礼	福岡看護専門学校 事務主任

* 委員会は 5 月、11 月、3 月(2 回)の年 4 回開催

3) 自己評価方法

令和 2 年度の教育活動、学校運営の全般にわたり、項目 I～項目 X の内容について、教職員個人による自己評価・自己点検の機会を設け、集約した結果を参照して、自己評価委員会にて評価を行う。

また、評価結果の妥当性を確認し、課題や改善が望まれる項目、その解決の方向性についての検討を行い、学校関係者評価結果と併せて、健全な学校運営に役立てる。

2. 自己評価の内容

1) 評価基準

自己評価、学校関係者評価に共通して、各項目の評価は下記に示す達成度による4段階の評価基準にて実施する。

- S: 達成度が極めて高い (達成度が高い)
 A: ほぼ達成している (概ね達成しており、明らかな改善は要しない)
 B: 達成がやや不十分である (若干の改善を要する)
 C: 達成が不十分である (不適合がある。明らかに改善を要する)

2) 自己評価の内容

- 項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像
 項目Ⅱ 学校運営
 項目Ⅲ 教育活動
 項目Ⅳ 学修成果
 項目Ⅴ 学生支援
 項目Ⅵ 教育環境
 項目Ⅶ 学生募集
 項目Ⅷ 財務
 項目Ⅸ 法令等の遵守
 項目Ⅹ 社会貢献、地域貢献

項目Ⅰ 教育理念、教育目的・目標、人材育成像

総括

学校の教育理念に沿った教育目的・目標はホームページ、学校パンフレットで公表している。学生には学生便覧に教育理念、目的、目標を明示しており、各学年の開始時や臨地実習のオリエンテーションで意識できるよう説明している。実習施設には、実習要項を用いて実習目標と実習内容を説明している。また、実習指導者会議等で教育理念を踏まえた学習修得の依頼をしている。

今年度はCOVID-19感染拡大により実習形態や実習内容の変更が多くあり、実習施設には変更内容を説明して協力を得た。保護者に関しても休校の措置をとる際は説明文書を郵送して了解を得た。

学生に求められている実践力、コミュニケーション力、アセスメント力を育てるために、基礎看護学の講義では演習を取り入れ、シミュレーターや事例を用いて学生の理解が深まるよう努めた。

卒業時満足度調査では、「教育理念に沿った教育を受けられた」は91%の学生がそう思う、「教育方針や校風に共感することができ満足している」のは94%の学生がそう思う、「専門的な知識が身につく授業であり満足している」は96%の学生がそう思う、「専門的な技術が身につく授業であり満足している」は87%の学生がそう思うという結果であった。

課題

継続して、教育理念・目標等を反映した教育課程の構築を図る。

今後の方向性、方策など

継続して、教育目標等の周知と業界のニーズ把握の双方向から検討を行う。

小項目Ⅰ-1

教育理念・目的・目標、人材育成像は定められているか

■自己評価: S

■コメント: 学生便覧、学校パンフレット、ホームページ等で広く公表し、周知している。

小項目Ⅰ-2

教育理念・目的・目標、人材育成像、特色などが、学生・保護者、関係業界(高校、病院、実習施設など)に周知されているか

■自己評価: S

■コメント: 学生便覧、学校パンフレット、ホームページ等で広く公表し、周知している。

小項目Ⅰ-3

教育目的・目標、人材育成像は、対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか

■自己評価: A

■コメント: 学生に求められている実践力、コミュニケーション力、アセスメント力を育てるために、シミュレーターや事例を用いて演習を取り入れている。

項目Ⅱ 学校運営

総括

学校法人巨樹の会の事業目標・学校の事業方針をもとに管理目標を設定している。管理目標は各科で具体的な目標を立てて取り組んでいる。また管理目標は教員のキャリア別達成目標に繋げており、各自重点目標を立てて取り組み、自己評価をして目標達成に繋げることができている。

教職員の組織図、会議、委員会の設置がされており、各委員は年度初めに目標と活動内容を設定して取り組み年度末に評価している。全ての委員会が目標達成できており、年度末に活動報告を合同教員会議で報告している。

課題

特になし

今後の方向性、方策など

継続して、管理目標の設定と評価を行い学校運営に取り組む。

小項目Ⅱ-1

教育理念・目的・目標等に沿った運営方針が策定されているか。

■自己評価：S

■コメント：教職員の組織図、会議、委員会の設置がされており、委員会の運営は規定通りに実施されている。また、議事録を作成して周知されている。

小項目Ⅱ-2

運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。

■自己評価：S

■コメント：諸規程は各科で保管しており、閲覧できるようになっている。規則の変更がある場合は教職員に通告があり周知されている。

小項目Ⅱ-3

情報システム化等による業務の効率化が図られているか。

■自己評価：A

■コメント：学事システムや共有フォルダを使用し、学年運営に活用しており業務の効率化を図ることができている。学事システムの成績管理は、セキュリティ管理が行われている。

項目Ⅲ 教育活動

総括

学生便覧に教育課程、カリキュラムを明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、カリキュラムと授業計画を説明している。

臨地実習では実習指導者と連携してタイムリーな指導を依頼している。学生の援助後はリフレクションを行い、学びや課題明確になるよう働きかけている。今年度は COVID-19 の感染拡大により一部代替実習となり、各領域で学ぶべき内容を整理して必要な学習を組み立てた。また各領域の特性をイメージできるように視覚教材を用いた。評価は実習方法の変更内容に応じてルーブリックを修正して実習目標が達成できるよう努めた。

国家試験合格に向けて年間計画を立てて取り組んだが、今年度は COVID-19 の感染拡大により、日程や方法を変更することもあった。しかし計画内容はほぼ実施することができた。

授業評価については、外部講師は終講時に許可を得て学生からの評価をとり、結果を講師へ返している。内部教員も終講時に学生にアンケート調査を実施し、評価を受けて教育活動の達成度の把握と課題を明確にしている。授業評価の結果は一定期間教室に掲示して学生に公表し、フィードバックをしている。

卒業時満足度調査では、「実習での教育・指導体制に満足している」は 85%の学生がそう思うという結果であった。また「国家試験対策、学習支援に満足している」は 96%の学生がそう思うという結果であった。

課題

シラバスに授業毎の授業内容の掲載ができておらず、内部教員に関しては次年度より掲載予定である。

今後の方向性、方策など

継続して、教育理念に沿った教育の実施、評価を行う。

小項目Ⅲ-1

教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。

■自己評価：A

■コメント：学生便覧に教育課程、カリキュラムを明示している。学生には学生便覧とシラバスをもとに、カリキュラムと授業計画を説明している。次年度より内部教員はシラバスに授業毎の授業内容を掲載予定。

小項目Ⅲ-2

キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。

■自己評価：A

■コメント：専門性の高い看護技術に関しては、演習を交えた講義を行っている。臨地実習においては、実習要項に指導要項を明記しており、教育方法の共有を図っている。

小項目Ⅲ-3

授業評価の実施・評価体制はあるか。

■自己評価：A

■コメント: 授業評価をもとに、次年度に向けて改善できるよう取り組んでいる。授業評価結果は一定期間教室に掲示して学生にフィードバックしている。

小項目 III-4

資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。

■自己評価: A

■コメント: 国家試験合格に向けて、年間計画を立てて取り組んでいる。

小項目 III-5

関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など、資質向上のための取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント: 研修参加の費用負担が学校規程で定められているが、今年度は COVID-19 の感染拡大により十分な研修参加はできなかった。しかしオンライン研修で代替実習の研修を受けた教員は代替実習に取り入れることができた。

項目IV 学修成果

総括

就職支援の窓口を明確にして、定期的に個人面談を実施して相談・支援を行った。しかし今年度は COVID-19 の感染拡大により就職説明会やインターンシップの開催が少なく就職先に迷う学生が多かった。また数名の学生が採用試験で不採用となり、複数の施設を受験することとなり支援を行った。関連病院への就職率は 31%で関連施設のニーズは満たせている。卒業時満足度調査では「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は 73%の学生がそう思うという結果で、昨年に比べると 17%低下していた。就職先が中々決まらなかった学生には支援を行ったが不安もあり評価に繋がったのではないかと考える。

国家試験合格に向けて成績把握を行い、必要に応じて個別学習を実施した。今年度は COVID-19 の感染拡大により学習方法を変更するなどしたが、全員が受験に臨むことができた。卒業時満足度調査では「国家試験への対策、学習支援に満足している」は 96%がそう思うという結果で、国家試験の合格率は 100%であった。

各学年年度初めに個人面談を実施し、学生の状況把握を行っている。学生の状況により、相談にのるようしており、保護者との連携も図るなどして、退学率の低減に努めている。今年度の3年生は3年間で5名が退学した。退学理由は様々であるが、COVID-19 の感染拡大が影響していた学生もいた。今後も個別の対応とサポートをおこなっていく。

課題

継続して国家試験の 100%合格を目指す。

退学率低減に向けた関わりを継続し、退学率低減に努める。

今後の方向性、方策など

就職支援を継続して実施し、学修のサポートを行う。

国家試験の対策を行い、国家試験の 100%合格を目指す。

退学率低減に向けた関わりを継続し、退学率の低減に努める。

小項目 IV-1

就職率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント: 卒業時満足度調査では「就職活動や進学に関するサポートに満足している」は 73%の学生がそう思うという結果で、昨年に比べると 17%低下していた。学生個々の状況に合わせた支援に努める。

小項目 IV-2

国家試験合格率の向上が図られているか。

■自己評価: A

■コメント: 卒業時満足度調査では「国家試験への対策、学習支援に満足している」は 96%がそう思うという結果で、国家試験の合格率は 100%であった。

小項目 IV-3

退学率の低減が図られているか。

■自己評価: A

■コメント: 今年度の3年生は3年間で5名退学している。退学理由は様々であるが、COVID-19 の感染拡大が影響していた学生もいた。今後も個別の対応とサポートをおこなっていく。

小項目 IV-4

学生の社会的な活動を把握しているか。

■自己評価: B

■コメント: 学生の社会的な活動の把握については、卒業生の把握が不足しているため、次年度卒業後1年目の方を対象にアンケート調査の実施を検討している。

項目V 学生支援

総括

学生相談については、クラス担任が主で行うが、複数担当制をとっており、複数の教員で対応している。学生には相談等がある際はいつでも教務室へ来て構わないことを説明しており、教員は学生が相談しやすい雰囲気心掛けています。スクールカウンセラーを2名(非常勤)配置しており、カウンセリングが必要と考えた学生については、学生に合ったカウンセラーを勧めている。

保護者との連携が必要な学生に関しては、学生に了解を得て保護者に連絡を取り、学生支援を行

なっている。また、前期・後期で、学生の成績表を保護者に郵送しており、成績表と共に学生の学校生活状況の報告を行っている。

その他、奨学金窓口や学費相談の事務担当を設けており、学生の相談に乗るようしている。また、殆どの学生が就業しながら学校に通っているため、状況に応じて車通学を許可している。卒業時満足度調査では「教職員の学生への対応に満足している」は96%の学生がそう思うという結果であった。

課題

修学支援が必要と思われる学生に対しては、相談にのり必要な支援を行う。

今後の方向性、方策など

今後も、進路・就職に関する支援、学生相談、保護者との連携を図り、修学支援に努める。

小項目 V-1

進路・就職に関する支援体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント: 進路については面談と定期的な調査で把握し、進路に悩んでいる学生に関しては、個別の相談にのるようにしている。

小項目 V-2

学生相談に関する体制は整備されているか。

■自己評価: S

■コメント: 卒業時満足度調査では「教職員の学生への対応に満足している」は96%の学生がそう思うという結果であった。

今年度スクールカウンセリングは2~3名の学生が利用していた。

小項目 V-3

保護者と適切に連携しているか。

■自己評価: A

■コメント: 保護者との連携が必要と考えた学生に関しては、早期に保護者と連絡をとるよう努めた。保護者と関わることで、学生の悩みの本質が理解できることもあり、修学支援に繋がったと考える。

前期・後期に学生の成績表を保護者に発送しており、その際に学生の状況を伝える文書を添えている。

小項目 V-4

高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組みが行われているか。

■自己評価: A

■コメント: 次年度は入学停止のため学校訪問は実施していない。在校生の状況で必要があれば、卒業した准看護師養成学校の先生と情報交換をしている。

小項目 V-5

修学支援体制が整っているか。

■自己評価: S

■コメント: 奨学金や学費相談担当の事務担当を設けており、教員と連携してサポートしている。

校納金の支払いについて、必要な学生には相談にのっている。

奨学金は全体の半数程度の学生が利用している。専門実践教育訓練給付金制度の指定を受けており、3学年で3割程度の学生が対象となっている。

学生の殆どが就業しているため、通学の相談にのり、必要な学生には車通学を許可している。

項目 VI 教育環境

総括

今年度学内のWi-Fiのアクセスポイントが追加され、Wi-Fi環境がさらに整った。また各教室や会議室に電話が設置され利便性が上がった。

連絡ツールを用いて学生への緊急連絡などをとることができた。学校危機管理マニュアルの見直しを行い問題発生時の備えられるようにした。

課題

学校危機管理マニュアルを作成している。

今後の方向性、方策など

継続して教員間で学校危機管理マニュアルの周知徹底を行い、教員各自が使用できるよう努める。

小項目 VI-1

施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。

■自己評価: A

■コメント: 卒業時の満足度調査で「パソコン・インターネット等の情報整備や利用環境に満足している」は85%の学生がそう思うという結果であった。

小項目 VI-2

学内外の実習施設等について十分な教育体制を整備しているか。

■自己評価: A

■コメント: 実習の意義、位置づけは実習要項に記載しており、実習施設には実習要項を用いて説明を行っている。内容の周知は、実習指導者会議を開催して説明している。変更等が必要な場合は、実習施設に説明して了解を得ている。

小項目 VI-3

防災に対する体制は整備されているか。

■自己評価: A

■コメント: 災害時の行動は、学生便覧に記載し、毎年9月に防災訓練を実施し、学生・教職員の防災意識と知識の定着を図っている。
昨年作成した学校危機管理マニュアルの見直しを行い問題発生時に備えられるようにした。

項目VII 学生募集

総括

次年度は入学停止のため学生募集活動は実施していない。

課題

特になし

今後の方向性、方策など

特になし

小項目 VII-1

高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組みを行っているか。

■自己評価: なし

■コメント: なし

小項目 VII-2

学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか。

■自己評価: なし

■コメント: なし

項目VIII 財務

総括

中長期的な計画が示され、示された収支から安定していると考える。

教育事業の方針を基に、各科から希望を出して予算が立てられており、各科の希望を取り入れてもらっている。予算と決算については管理部門で確認がなされている。

監査は定期的に受けており収支は問題ない。

課題

安定した財政基盤の維持。

今後の方向性、方策など

適正な収支計画による学校運営の継続を行う。

小項目 VIII-1

中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。

■自己評価: S

■コメント: 中長期的な計画が示され、示された収支から安定していると考える。

小項目 VIII-2

予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。

■自己評価: S

■コメント: 予算は事業計画と本校の方針に従い、各科からも希望を出している。学校の予算は本部で集約され、本校の予算が立案されている。

決算の管理は管理部門で確認されており、会計監査も受けている。

小項目 VIII-3

財務について会計監査が適正に行われているか。

■自己評価: S

■コメント: 財務の会計監査は実施されており、収支に問題はない。

項目IX 法令等の遵守

総括

法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を行い、教育水準の向上に努めている。

ハラスメント防止策として、ハラスメント防止規程が示されている。学校法人のハラスメント委員は掲示されており教職員に周知されている。今年度もハラスメントに関するアンケート調査が実施され、昨年のアンケート結果の開示も行われた。

個人情報に関しては、学校で作成しているガイドラインに基づき取り組んでいる。ガイドラインは学生にも提示し、実習前に実習施設に個人情報保護の誓約書を提出している。実習期間中は学生もガイドラインに則り、患者の個人情報取り扱いに留意している。また、卒業時にも個人情報保護に関する誓約書をとっている。個人情報が記載された資料の管理は、梱包して処分されており、情報管理に努めている。職員の入職と退職の際に、職務中に知り得た情報の保護について、誓約書を交わしている。

課題

特になし

今後の方向性、方策など

継続して、法令、設置基準に基いた報告・届出を行うとともに、法令等の遵守に努める。

小項目 IX-1

法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか。

■自己評価: S

■コメント: 法令、設置基準に基づき、必要に応じて報告・届出を行っている。また、自己点検・自己評価を実施しており、適正な運営はできている。

小項目 IX-2

個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。

■自己評価: S

■コメント: 教職員、学生ともに個人情報保護のガイドラインに則り、個人情報保護に努めており、学生、教員のインシデントは発生していない。

項目 X 社会貢献、地域貢献**総括**

学校施設は関連施設の研修や会議に使用できるようにしているが、今年度は COVID-19 の感染拡大の影響で使用はしていない。図書室は卒業生も使用できるようにしている。ボランティアに関しては、働きながらの学生であるため、参加は難しいが、ボランティアの募集がある際は学生に呼び掛けを行っている。

課題

ボランティア活動の奨励

今後の方向性、方策など

学生のボランティア活動の把握と、ボランティアの募集があれば、積極的に奨励する。

小項目 X-1

学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。

■自己評価: A

■コメント: 学校施設は関連施設の研修や会議で使用できるようにしている。

小項目 X-2

学生のボランティア活動を奨励しているか。

■自己評価: A

■コメント: 年度初めの個人面談でボランティア活動の状況把握を行っている。ボランティアの募集があれば、学生にも伝えている。